

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JievosyoCd=2172800290-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JievosyoCd=2172800290-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成29年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月の勉強会(ICF、パーソンセンタードケアなど)を継続して行い、ICFの視点とグループホームの理念である「尊厳を守ること」を重点に置いたケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全員で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者様の思いに寄り添いながら認知症ケアの専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任感や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアにおいて大切な「尊厳」や「利用者本位」などの意識を高めるため、勉強会を定期的で開催して、ICFやパーソンセンタードケアについて理解を深めている。それを踏まえたケアの実践により、生活の様々な場面において、利用者の個性や潜在的な力の発揮につながっている。食事の場面において、「役に立ちたい」という思いや「自分でやりたい」という誰もが持ち合わせている力に着目し、声かけ等により自らお膳を運ぶ人も多く、体調さえ良ければ調理を手伝う方もあるとのことである。また、「給を買いたい」「ちょっと散歩したい」等の具体的な要望が出ると、活性化のチャンスとして、職員間の連携を図り、付き添う等の外出支援を行っている。居室においても壁一面に家族写真が貼られる方もいれば、持ち込んだタンスの上にシンプルに写真と水を供えられている方等、利用者が思い思いに居室を飾られていて、利用者の意向を大切にしている姿勢が感じ取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会を通じて理念を共有し、実践につなげている。理念は、意識づけるために何力所かに掲示している。	月に3回あるカンファレンスのうちの1回は勉強会としてICFの視点やパーソンセンタードケアについて理解を深め、振り返りを行っている。振り返る事で理念にある「尊厳」や「いつまでもその人らしく」を意識し、日々の業務に取り組めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事に参加したり、ホーム開催の行事に地域の方に来ていただき交流をしている。小中学校、保育園とも交流があり、行事を一緒に楽しむなどしている。	地域の盆踊りや秋祭りの際には、老人会や自治会役員からのお誘いがあったり、小中学校の運動会には観覧席が設けられる等地域の一員として交流している。3月に行われる「がんどうち」という行事では子どもたちがお菓子を貰いに来たり、お菓子を持って訪ねたりする等、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にホームの行事に参加していただき交流したり、外出の認知症への理解につなげようと努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないので、定期的開催したい。	地域やホームの行事での交流を通して、地域の役員と連携を図っている。家族とも面会や行事参加を通して交流している。また、行政とも連携を取り、いつでも駆けつけてもらえる関係にあるが、地域、家族、行政等の各メンバーが揃う日程の調整ができず、開催していない。	まずは、地域、家族、行政すべてのメンバーが揃わなくても行事等の催しの前後に会議を開催する等、その検討に向けた取り組みに期待したい。また近隣協力者への呼びかけや、地域包括支援センター等への働きかけにより、将来的には各方面のメンバーが揃っての開催につながっていくことも期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当の方とは必要に応じて連絡をとり、協力関係を築けるよう努めている。	市担当者とは、市内のグループホームでの会合や介護人材確保についての会議等を通して、話し合いの機会を持ったり、情報交換の機会を持つ等して関わりを深めている。また市の文化祭行事への作品出展も勧められる等、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の自由な心、開放感など大切に、どんな小さな事でもそれが拘束になっていないかと意識を持ちケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関の施錠もしていない。	様々な周辺症状に対し、その行動を抑えるケアではなく、その行動の背景や要因を話し合い、利用者一人ひとりに応じたケアに努めている。例えば、転倒の危険が伴う場合には、必ず付き添って一緒に歩いている。夜間、センサーを使用する場合でも、抑制目的ではなく、トイレ利用等、目的に応じ、付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などないよう意識づけるためにも勉強会を行っている。入浴時など、身体に異常がないか注意深く見るようにしている。言葉による暴力にも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様が見えるため、ある程度の理解はあるが、より知識を高めるために皆で勉強できる機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を心がけ、疑問点があればお答えし、理解が得られるよう努めている。改定があった際も文書などで丁寧な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やイベント時など、御家族様が意見や要望を出していただけるよう話をする時間を設けている。要望などは、迅速に検討し、反映に努めている。苦情受付のポスターも掲示している。	面会時等に意見を聞くように努め、そこで出た意見や要望をホームの運営に反映させている。例えば、職員が交代し、わからないとの声を受けて、家族会で職員の紹介をしたり、面会者がわかるようにしたいとの要望を受け、個々に訪問ノートを作成し、閲覧できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会など意見交流の場がある。必要に応じて個人面談を行っている。日常的に意見交換を行い、反映させている。	月3回の勉強会やカンファレンスで意見交換を行ったり、年2回実施する役職者との面談で意見を述べる機会がある。職員から出た意見として「申し送りノートについて、1冊にすべて記入していたが、利用者ごとに分ける方が良い。」との提案があり、変更する等、ケアの実践に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの状態の把握に努めている。研修への参加を促し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会を開催し、勉強する機会がある。現場でも、スタッフ同士で学んだことを教え合いながら身に付けている。外部への研修の参加も促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に事前調査に出向き、ご本人のご様子の把握や話をきく機会を持っている。事前にお会いすることで、ご本人に少しでも安心感を持っていただき、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際、ご家族様ともお会いし、ご要望等なるべく詳しく聞かせていただいている。誠意を持って接し、利用を重ねながら家族との距離を縮めていけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様に今必要な支援を見極め、ホームでできることと照らし合わせながらの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、共同で事を成し遂げる喜びを作るようにしている。感謝の言葉を多く発するようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で近況報告し、時には電話で相談や報告をし、現在の様子を理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店や床屋などを把握し、本人の希望に添えるよう努めている。面会に来られた方とゆっくり話ができるような場を提供している。	認知症研修等で用いるセンター方式の書式を活用し、家族に記入していただく事で、今までの生活歴や性格、こだわり等もきちんと把握している。また、新たに本人から収集した情報も書き加えている。家族や友人の協力も得て、お墓参りやお寺の行事への参加等、馴染みの関係が継続するよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席順を気の合う方同士を近くにするなど配慮し、関わりを見守り、必要に応じて介入している。活動の中で利用者様同士が支え合い、より良い関係が築けるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、どんなことでも必要に応じてこれまで通り相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の希望、意向の把握に努めている。会話が困難な利用者様には、表情や言動を注意深く見極め、どうしたら良いか職員同士で話し合っている。	利用者の要望に対し、迅速に対応している。すぐには対応不可能な場合でも、職員間の連携で、なるべく可能になるよう工夫している。自分から意思表示ができず、自分では動けない利用者に対しても、姿勢が安楽かどうかとか、どんな思いや要望があるのだろうかについて、声かけながら共感的に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネなどから情報提供をしていただき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護経過記録や夜間、業務の申し送りノート、日程表等で個々の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様に事前にご希望を聞き、カンファレンスにて職員間で意見交換をしたり、意見を出し合って、本人の生活ぶりを見ながら現状に即した介護計画を作成している。	計画については状態の変化に合わせ、定期またはその都度変更している。家族には面会時や電話にて意見を確認している。職員間で担当もち、月に2回のカンファレンスで意見を出し合っている。更新されたプランは個別ファイルに綴じ、いつでも確認ができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ一人ひとりの重要視する部分が違うため難しいが、できるだけ情報を共有しながら実践へ生かしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や買い物など状況に合わせて、出来る限りの支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	落語、歌など、ボランティアの方が定期的に訪問して下さっている。地域のイベントへの外出支援や近隣の保育園、学校等と交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、鍼灸の往診もしていただいている。ご本人、ご家族の納得が得られたかかりつけ医には継続的に診ていただき、状況に応じて適切な医療を受けられている。	歩行可能な利用者は、職員に付き添われ、ホーム向かいの内科医院に徒歩で行き、受診している。遠方の専門医の受診については、家族に同行協力を依頼すると共に、文書にて本人の状況について情報提供する等、医療機関との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師の方との情報交換は常に行い、アドバイス等いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーなどで利用者様の状態をお伝えし、入院による本人へのダメージの軽減に努めている。退院時も情報をいただいている。入院時も時々様子を伺いに出向いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族の希望、ホームでできることを話し合い、家族、主治医、ホームで書面を交わし同意を得ている。最期を迎えるまでの間、チーム全員で支援している。	外部でのターミナル期の在り方についての研修への参加や事業所内での勉強会などにより、スキルアップを図り、対応方針を職員間で統一して支援している。家族の要望に応じて宿泊も可能である。看取り後には、職員間で話し合いを行い、支援の質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が緊急時に対応できるよう勉強していきたい。急変時の対応、事故の時の応急手当など勉強する機会を多く取り入れていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者様と共に消防署指導のもと、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行った。災害に備え、発電機、非常食、水などの準備はしている。地域との協力体制を強化していきたい。	夜間想定訓練では手順に沿って行われたが、連絡網の見直しの必要性や避難完了までの時間がかかりすぎるなどの問題点も見つかり、今後の改善課題となったことである。備蓄については非常食に加え、ストーブ、毛布などの寒さ対策やおむつ、ポータブルトイレ等の排泄に関する準備もされている。	誘導の際の完了時間短縮のため、連絡網の見直しや近隣住民に協力をお願いし、何を担っていただくか等についても相談するなど、災害時におけるより具体的な役割や対応について取り決めする等、実践的な地域の協力体制構築に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームの理念に通ずる事柄なので、常に念頭に置き、言動には注意し対応している。全職員に徹底していきたい。	利用者一人ひとりの日々の心身状態に配慮し、入室時にはノック、声かけなどを行っている。トイレ介助の際には、バスタオルを前にかけるなど配慮している。きめ細やかに一人ひとりに対応するように心がけ、常々利用者の尊厳について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を表出しやすい雰囲気作りに努めている。表出が困難な方には、2択の選択をしていただく等働きかけている。拒否がある場合には、決して否定や無理強いをせず、本人の意思ととらえ尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望に沿って過ごしていただけるよう努めているが、人手不足や時間的な縛りもあり、希望に添えていないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔であることに気を配っている。外出時やイベント時にお化粧をさせていただいたり、喜んでいただけるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどは、一人ひとりの力、その日の体調などを見極め、無理のないよう共に楽しみながら行うようにしている。必要とされていることを感じられると、生き生きとした表情が見られる。	その日の冷蔵庫にある食材でその日のメニューを考えている。3日前ぐらいまでのメニューと重ならないように決めている。誕生日の利用者からのリクエストに応え、ちらし寿司なども作られている。利用者も野菜刻みやテーブル拭き、味見など、それぞれできる範囲で準備に参加し、力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。体調を見ながら水分・栄養バランスを考え、定期的な水分補給、補食を供給するなどして工夫している。食事形態も利用者様一人ひとりに合わせ、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後、起床時、就寝時には介助にて行っている。月2回の歯科医の往診でケアできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の人を除いて排泄表を付け、一人ひとりの排泄パターンを分析し、トイレで気持ちよく排泄していただけるよう支援している。	現在、部屋でポータブルトイレを使用している利用者はいない。排泄チェック表による排泄間隔を把握し、所作や表情等からタイミングを見計って声かけしてトイレへ誘導する等、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の状態を把握し、腹部マッサージや運動、足湯、乳製品を取り入れるなど個々に応じ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴をしているが、入浴時には本人の意向をうかがい、入る時間を相談したり、着替えを一緒に選ぶなど楽しんでいただいている。	入浴時間は午前又は午後の時間帯を基本としているが、例えば夕方に入りたいとか仲の良い利用者同士で入りたいという個別の希望にも対応している。要介護状況に応じて職員2人体制による介助入浴も行われている。利用者が服を選ぶといった楽しみも大切にしながら、着替えの準備等を手伝っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、休息していただく時間を設けている。寝具や室温を整え、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について申し送りノートで伝え、理解に努めている。処方の変更時には、症状の変化、体調の変化に気を付けている。服薬については必ず見守り、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな物事、生活歴などを把握し、ケアプランに取り入れ、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。お経、カラオケ、生け花、朝のコーヒー等。一人ひとりが役割意識を持ったり、気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調、希望に沿って、喫茶店、ドライブ、朝市、外食等、短時間ではあるが外出の機会を作って、本人の希望に応えるよう努めている。利用者様にとって思い入れのある場所を把握し、出来る限り支援している。	近隣の散策等で、カモやヤギなどの動物に癒されたり、寿司やうなぎを食べに行ったりしている。また、入居前からの馴染みの喫茶店へ車で出かけたっており、家族同行で温泉旅行に行ったこともある。季節により外出が難しい時もあるが、月に1回は、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での管理が難しい方には、財布を金庫でお預かりし、支払いが行える方には、買い物時財布をお渡しするなど、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には事務所の電話を使っていただいている。手紙を出す支援もしている。家族の状況や本人との関係性も考慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関に季節の花を飾り季節感を取り入れている。音楽を流す時間とTVをみる時間など利用者様の様子をみながら調整している。光の加減や室温などにも気を配っている。トイレ等、いつも掃除され気持ちよく使用できている。	共用空間のところどころに花が活けられる等、季節感が演出されている。ゆったりと歩行できる廊下に大きめのソファが置かれ、壁には絵画や習字の作品がすっきりと飾られ、落ち着いた雰囲気を醸し出している。台所は利用者と職員が共に食事の準備ができるように十分な広さがとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階のリビングなど気の合った同士でお茶を飲んでいただける空間がある。廊下に椅子やソファを置き自由に使っていただけるようにしている。休止中のデイホームの建物の空間も活用していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ちこんでいただいている。居室に写真やちぎり絵を飾るなどし、居心地がよくなるように工夫している。	家具は馴染みのあるタンスなどが持ち込まれ、タンスの上にある写真に、毎日水が供えられている部屋や写真が壁いっぱい貼られ、にぎやかな雰囲気の部屋等、利用者それぞれ、その人らしい個性豊かな部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、リビングに目印になるようなものを設置している。居室には名前を付け、場所が分かりやすいようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437-1		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JievosyoCd=2172800290-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JievosyoCd=2172800290-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成29年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に入る場所に理念を掲示し、意識づけている。毎月の勉強会でも確認し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事(運動会、ひな祭り)に参加したり、事業所開催のイベントへの参加をいただいている。中学生の福祉体験学習の受け入れ、託児所、保育園と行事を一緒にすることもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に声をかけ、ホームの行事に参加していただき交流を持ち、認知症への正しい理解が得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていないため、定期的に関催したい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度やグループホーム制度上の疑問点や課題について、助言やご指導をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について学び、拘束をしないケアを行っている。玄関の鍵は昼間は開けており、夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で身体的、精神的虐待について学んでいる。入浴時、トイレ介助時などに、身体に異常はないか注意して見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様が見えるため、制度などもっと勉強したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に安心、納得して利用を開始していただけるよう丁寧な関わりに努めている。疑問点などもお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との食事会を設けたり、面会時に声を掛けたりして、意見、要望等を出していただけるよう努めている。いただいたご要望に迅速に検討し、反映させている。苦情受付のポスターも掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やカンファレンスの時に意見・提案を自由に言える機会を設け、その都度検討している。年に一度は管理者との面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況の把握に努め、事情等考慮しながら就業環境の整備をしている。給料が労働の割に少なくやりがいに結びつかない。家で行う仕事もあり、休みであっても休みでないこともある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会(パーソンセンタードケア、ICF)を開催し、勉強する機会を作っている。研修の情報を積極的に提供し、日程の確保なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は少ないと感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネからの情報提供をいただき、事前調査にも行っている。事前に顔を合わせることで、少しでも安心感を持って入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や入所時には、ご家族の思いをお聞きしている。誠意を持って接し、利用を重ねながら家族との距離感を縮めていけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の際、ご本人、ご家族様が今困ってみえることを見極め、サービス内容を検討し、今困ってみえることにアプローチさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も一緒に食事をしたり、色々な作業をすることにより、共に過ごし、学び、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様にお手紙を書き、遠くに見えるご家族様にも状況を把握していただけるようにしている。何か変化等あった時にはご家族に相談をしながら、ご本人への支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院、店、祭り見物、運動会、花見、初詣などへ出掛けている。面会も自由に來ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立や対立がないよう絶えず気を付け、作業していただく時のメンバーを考えたり、席の配置をしている。何かあれば素早く介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて相談など受け付けている。屋外でお目にかかった際には、近況をお伺いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、意向の把握に努めている。言葉の出ない方の意向は、表情、状態などから職員で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャー、ご家族様からの情報提供、ご本人との会話などから把握し、ケアに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック時や食事摂取量、表情など、常にご本人の様子をみるようにしている。介護記録、夜勤記録、職員間の申し送りにて把握に努めている。生活の中で利用者様ができることの発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングをその時の状況に合わせて行い、ご本人、ご家族様の要望を反映した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録、業務申し送りノートを通じ、職員全体で情報を共有し、介護計画の見直しに役立っている。利用者様の状況が変わった場合の見直しなど、もっと速やかに行っていく必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付添や個人的な外出の送迎をするなど、その時々状況に合わせて、できるだけ柔軟な支援を行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や近隣の保育園や学校との交流を大事にしている。落語や歌のボランティアなどのご協力を得て、暮らしを豊かに楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の納得が得られたかかりつけ医に状況を把握していただいております。急変時にも対応していただいております。歯科、鍼灸の往診もしていただいております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことを看護師に細かく伝えると共に、医学的アドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを細やかに記入し、入院によるご本人のダメージの軽減に繋げている。退院時も情報をいただき、スムーズにこれまでの生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早めの段階でご家族様とかかりつけ医とホームで面談を行い、書類を交わし、同意を得ている。職員全体で方針を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特定の職員しか行えない事が多いため、職員全員での初期対応の勉強を行いたい。自己努力も必要となってくると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回消防署指導で行っている。今年度は夜間を想定した訓練も行った。緊急連絡網、発電機の用意、食料などの備蓄もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、その方が傷つくことなく、納得していただける声掛けを心掛けている。介護職が長くなると「～だろう」が増えてくる。相手の立場に立ち、常に緊張感のある仕事へのモチベーションを持ち続けたい。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中でお気持ちを引き出せるよう努めている。自己決定が難しい方は、選択しやすいような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけご希望に沿って過ごしていただけるよう努めているが、入浴日など職員の都合が優先されてしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの床屋への外出支援をしたり、訪問理容を利用している。起床時にはヘアスプレーで髪を整えたり、愛用の化粧水などで肌を整えている。おしゃれ心を大切にしていけるよう、「自分なら」と常に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を見極め、自信を持って楽しくできる仕事をお願いしている。職員も一緒に食事をし、片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、好みなどを把握し、一人ひとりの状態に合った食事形態で提供している。時間を決め水分補給をしていただき、不足がちな方には、その方が好まれる飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジブラシ、ガーゼなどを使い、利用者様それぞれの状態に合わせて毎食後支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行っている。介助の際もご本人のできる部分を大切にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて排便の状況をチェックし、水分量に気を付ける、乳製品を提供する、腹部マッサージを行うなど、自然排便へとつながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴日が設定してあるが、タイミングや体調をみながら声掛けをしている。本人の希望があれば昼夜を問わずいつでも入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状態や本人の希望により場面に応じて休息していただいている。室内の温度調整、清潔な寝具、静かな環境など気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が薬庫で保管し、薬の目的などの理解に努めている。服薬については必ず見守り、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝のコーヒーが習慣の方に、毎朝コーヒーをお出ししたり、好きな音楽をかけたり、生け花がお好きな方に活かしていただくなど、お好きなこと、得意なことを把握し、気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、ご本人のご希望にそって喫茶店や買い物、朝市などに出掛け外出している。特定の人になりがちなので、皆様に支援を提供できるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での管理が難しい方は金庫にてお預かりし、買い物や外出の際にお渡しし、自分で支払うことで楽しさや満足感に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により、自由に電話の使用ができる。手紙もいつでも出せるように支援している。家族の思いも配慮し対応している。郵便物が届いた場合は、返事を書いていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や換気、室内の明るさ、テレビのボリュームなどに気を付けている。玄関やリビングには季節の花を利用者様に飾っていただいたり居心地のよい空間となるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外や廊下に椅子やソファが置かれ、自由に使用していただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいて、居心地よく過ごしていただけるようにしている。写真を飾るなど、本人にとって居心地がよく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	公衆便所の張り紙、お風呂場ののれん、リビング入口の提灯などで場所がわかりやすいようにしている。		